

# rongorongongo

## 茨城キリスト教大学 文化交流学科

茨城キリスト教大学文学部文化交流学科 〒319-1295 茨城県日立市大みか町6-11-1 TEL 0294-52-3215 FAX 0294-53-5864

# 卒業するいま 四年間をふり返る

## ホテル業に就職 大学で学んだ

### ことを十分に活かしたい 椎名麻衣子

#### 人生の中で貴重な時間

この学科に入って4年、ついに卒業の時がきた。4年間なんていうものは驚くほど早く過ぎていく。大学は中学や高校に比べ、自由な時間が多い分、ボーっとしているところとあっという間に終わってしまうのだ。こういう時間があることは人生の中でとても貴重だと思う。自分なりに有効に使うべきだ。私は、正直言っちゃって後悔している。なぜ、自分にあてえられたこの時間の素晴らしさに早く気づかなかったのだろう。しかし、後悔していても始まらない。気づいたならば、思い悩むより早速、行動するべきであろう。そう思い、元々、海外旅行や国際交流に興味のあった私は、いつもならばバイト三昧の春休みに学科の香港旅行に参加することにした。これをきっかけに旅の楽しさを思い出し、また同時に未知の土地・異文化に触れることへの好奇心を抑えられなくなったのだ。

#### 心の柔軟さを養う

文化交流学科に入学したのも異文化への興味からであった。私はどこか一つの国に対

し、特に興味を抱いていたわけではなかった。色々な文化を学べるように授業は国やジャンルを問わず選ぶことにした。そこでは新しい知識を取り入れることができるのはもちろんであるがそれだけではない。齋藤先生による日本史の授業では自分が今まで常識と思っていたことが覆されることもあり、「事実」を知る

#### 日本語の魅力

もう一つこの学科を志望した理由がある。それは日本語への興味である。初めは、海外に行つて日本語教師をするのが夢であった。しかし、それを目指し、日本語を学んでいるうちに人に教えるということよりも、日本語自体の魅力に取り付かれてしまったのだ。日本語の面白さや奥ゆかしさ、

## この学科の面白さは

### 自分で感じるしかない！ 鴨志田恵美

#### この学科って、何を学ぶの？

入学した当初、入ったはいいが一体何を学ぶ学科なのだろうと自分でも首をかしげたぐらいだ。

それくらい神秘性のある学科に、私は思った。もちろん友人や周りの人に文化交流学科って何？何勉強するの？な



また難しさ。日本人でありながらも流暢で美しい日本語を使うことは意外と難しいものだ。これを使いこなせたらどんなにいいだろう。言葉は人と人のコミュニケーションをとる重要なアイテムだ。この先もずっと共にしていくものとしてまだまだ深めていきたいと思っている。

私は春からとあるホテルに勤める。この学科で学んだ人と触れ合う事の楽しさ、日本語の美しさへの興味などが、ホテル業へと導いたのだろう。これからはそれを十分に活かしながら仕事をしたいと思う。

はつきりいつておもしろいし、自分のためになるものばかりだった。

#### 個性強烈な教授陣

そして何よりも個性の強烈な教授が目白押し。特に私が出会った先生たちはすごかった。1年のゼミでは、堀口悟教授。一見やさしく見えるが、なかなか厳しい面も。主に日本文学や日本語教員関係の講義を受け持っている。百人一首が始まると人が変わったように変身する。他にも日本語教育関係の講義を受け持ち、将来、日本語教師を目指すならばぜひ彼の講義は取るべき。

#### 毒舌も面白く感じられる

普通ゼミというものは一度教員を決めたらあまり変更す

るのは好ましくないらしいが、私は2年次から他の教授に移った。そこで、さらにへビーな教授に出会ってしまった。猿田知之教授だ。主に日本語学を中心に言語について歴史や方言などの講義をしている。なかなか毒舌な教授で、思ったことはズバツと言いつつ。だが、一度聞きなれてしまうと、その毒舌さえも面白く感じるようになるので、仲良くなる価値あり。他にも日本の言語文化などを教えている。

とにかく、学科の教授は一人一人個性が強烈なものだから、どの先生と話しても自分の探していた答えを見つけることができる。むしろ一度、名前と顔を覚えられれば講義中思わず寝てしまうなんてことはありえない。先生の一言一言に耳を傾ければ確実に自分の興味に引っかかる。

#### 留学生との交流

何か目的を持ってこの大学に入学を決めた、目的を見つけないためにこの大学に入学を決めた。理由なんてどちらでもいいと思う。そこで誰と出会い、何を身につけていくかが重要でないだろうか。そして、「文化交流」という名前の通り、交流をする目的もある。学園にきた各国の留学生と友達になれる！！なんて国際色豊かなのだろう。お互いのプライベートタイムにはいろんな場所にかけたたり、家にお邪魔して料理をご馳走になったり、学科の研修旅行では海外にいくたりもする。内容も教授も盛りだくさんの学科、それが文化交流学科。入ったら必ずやみ

つきになってしまふこと間違いない！！大学生生活おもしろくするのも、つまらなくするのも自分自身。だったらおもしろい方が良いに決まってる。

#### 文化交流学科と就職

就職だって文化交流学科だとは何かあるのか心配と感ずるかもしれない。言語に携わる人進む人もいる。私の場合、就職活動自体、早めに始めたせいか、あまり苦労せずにすんなりと内定をもらえた。決まった職場は、教育関係でも言っておこう。とにかく就職活動において、何が大事か。早め始めること。友達を頼らない、自分のことだから。分らなくなったら、就職部へGO!!

初めてのことは分からないことだらけ、大学生生活も就職活動も。文章ではとても伝わらない。とにかく、自分で感じてこそ初めて分かる。ぜひ感じて欲しい。大学の面白さ、文化交流学科の面白さを。

JICAの協力で今年も開催

## OBOGが語る

### 青年海外協力隊

5月10日(火) 3306教室 10時15分～11時40分  
文化交流論の授業の一環ですが、全学生にオープンします。



この春卒業した中国人留学生の張監君と儀亮君。ともに日本の大学院に進学した。

# 茨城キリスト教大学 怒涛の韓国横断!

## 染谷智幸

文化交流学科・現代英語科を中心にした22名の学生と私染谷は、3月初旬、韓国に渡り明知大学、大邱カソリック大学との交流を行ってきました。

日程は、  
◆3月7日(月) 成田→ソウル、焼肉大会  
◆8日(火) ソウル→大邱、大邱カソリック大学の学生と市内観光、後に交流会。  
◆9日(水) 大邱→ソウル、ソウル市内観光  
◆10日(木) 明知大学の学生達とソウル市内観光  
◆11日(金) ソウル→成田

以下、エピソードを交えた染谷からの若干の報告と、学生達の旅行記です。

### 先生、ホントごちそうさまでした!

(学生数人)

初日の大焼肉大会で、私染谷は大盤振る舞いをしてしまいました。最初はそんな気全然なかったのですが、じつは明知大学の先生と今度一緒に本を出すことになり、その執筆料がその宴会の最中に私に届けられたのです。ほとんど酔っ払っていた私は気が大きくなって、「みんな!これで大いに飲も



う」なんて、言わなきゃいいのに、言っちゃって……(涙)

### 先生、マジギレしてたでしょ?

(3年生A子)

8日の朝は大変でした。韓国の新幹線KTXに乗るために宿舎を早く出発した一行でしたが、運の悪いことにラッシュアワーに激突。学生が地下鉄に乗ろうとしたところ、もたもたしていた学生が乗る前にドアが閉まってしまいました。「まずい!大邱に行けなくなる!」と恐怖におののいた私は何かを叫んでいました。何を叫んだのかは忘れましたが……結局、再度ドアは開いて事なきを得たのでした。フウッ(汗)

### そこのお客さん! ちよつと静かに!

(大邱の店員)

大邱カソリック大学の学生たちとの交流会は、市内中心地にある大きなクラブハウスで。そこには大きなステージがあり、プロの歌手が唄を繰り広げていたのではありませんが、ウチの一行はそんなお構いなく大騒ぎ。あまりにウルサイので店から注意が入りました。でも、学生は韓国語が分からず、ますます大騒ぎに。私も分からない振りをしたので、店員は諦めたようでした。(写真はそのステージで大邱の学生と一緒に撮ったものです)

### 先生、今度来るときは、景福宮とか有名なところに行きたいですね

(4年生B子)

今回の旅行は交流を第一に考えたので、史跡巡りなどは自由意志に任せました。ま、何人かは行くだろうと思つてましたが、後で聞いたらほとんどが韓国の学生達と食事・買い物・カラオケ……。大邱への往復に使ったKTXは、ソウル郊外の丘陵地を走っていたために昔の両班(ヤンパン)が住んでいたような屋敷や書院みたいなものが良く見えたのですが、学生達は疲れて爆睡状態……。文化交流の「文化」は限りなく透明に近いブルー……。ま、次に期待しましょう。

### ▼学生の旅行記

#### 韓食を堪能した5日間!

4年生 谷中芽子

今回の韓国旅行はとても楽しみにしていた。昨年まで来ていた留学生に会えるからだ。留学生とは授業などを通して1年間仲良くさせてもらったし、何より皆親切でお世話になりっぱなしであった。だから日本ではなく韓国で会う事が出来るのはとても楽しみであったのだ。

韓国に着いて、その日の夕食は留学生と合流し、皆で焼肉を食べた。韓国のレストランはどれもサービス品が多く、食べきれないほどのおまけ(ビール、ジュース、キムチ、漬物、サラダなど)が付いてくる。焼肉は店員さんが焼いて切つて



くれるので楽に食べられた。食べ方など留学生に聞いてとてもおいしく食べる事が出来た。帰国する前日にも留学生は私達を案内してくれた。一緒に居酒屋でチヂミを食べた。初めてチヂミを食べた私はおいしくてうっとりしてしまった。作り方を留学生にたずねると以外にも作り方は簡単、日本の家庭でも簡単に作れる事が分かった。その日は盛り上がり、次の日帰国する為、この日でもえなくなるのとても辛かった。

今回の旅行では留学生に案内してもらい良いお店をたくさん紹介してくれたので楽しい旅行にする事が出来た。結局留学生には日本でも韓国でもお世話になりっぱなしであった。韓国に行つて「食」を堪能した旅であったと思う。帰国してからはチヂミを作り、おいしく食べている。

### 完璧な偽者あるよ!

05年3月卒業 藤崎 真希子

最後の春休みを利用して、韓国好きの染谷先生と学生21人で韓国に行ってきました。韓国では、ほぼ毎日が焼肉・キムチ!!!しかも量が多いのに安い!!!焼肉は肉だけを食べるのではなく、必ずサンチュなど

でまいたり、サラダと一緒に食べたり、いろいろな食べ方がありました。キムチにも水キムチという辛い漬物のものもあり、驚きました。また、大人数で店に入ると、飲み物やおつまみのサービスがあり、韓国って太っ腹な国だと感じました。食べるだけでなく、ちゃんと交流もしてきました。韓国第2の都市、大邱では大邱カトリック大学の学生達に市内を案内してもらいましたが、一番楽しかったのはカラオケです。今は日本語で歌えるのもあり、ボアや中島美嘉の歌を韓国バージョン、日本語バージョンで歌いあつたりして大盛り上がりでした。その間、染谷先生は古本屋さんを徘徊していたようです。そしてソウルでは、明知大学の去年留学に来ていた学生と今年来る学生と一緒に南大門市場に行き、あまりにも市場が広くて迷子になりました。偽ブランド売りのおじさん達の「完璧な偽物あるよ!」の商売文句や、あの有名なベ・ヨンジュン的なめ下向きではほえんでいる顔つきの靴下には爆笑でした。また、2年前に留学に来ていた学生で、メールでずっと連絡をとりあつていたジョンユンとも会うことができました。4泊5日の韓国旅行は本当

に楽しく、あつという間に終わってしまいました。韓国の友達がたくさん増えました。大学を卒業しても、知り合うことのできた韓国の友達とメールでの交流は続けていきたいと思えます。そして、今回一緒に行つた友達と時間をつくつてまた韓国に行く予定です。

### 韓国学生の行動力に脱帽!

05年3月卒業 椎名麻衣子

大学生生活の最後の思い出に韓国旅行に参加した。私にとつてのいわゆる卒業旅行となった。韓国に前々から興味があつた私だが、文化交流学科に4年間所属していたにもかかわらず、韓国について集中的に学ぶこともなく、最近の韓流ブームにもついていけずにいた。知っていたのは少しの歴史と食べ物のことくらいであった。従つて、私の受けたカルチャーショックは大きい。

まず、どこの店に行つても思うことが、おまけが多いということ。焼肉屋に行つて注文した肉よりも付け合せの方が大量で机を埋める。またそれらはおかわり自由だ。しかも、今回は20数名という団体で行つたため始めの飲み物がサービスになった。飲食店だけではない。カラオケに行つ

## 森謙一



趣味と言うほどのものではないが、夏になるとトマトを作り、冬になると沢庵を漬けるのが恒例になっている。ところが、昨年はトマト作りも

でもそうだ。退室までの残り時間がカラオケ画面に表示されるのだが、その時間が減つては増えるのだ。さつきまで残り20分だったのが気づくと35分に増えたりする。これもサービスらしい。いったい終わりはいつなのか? 私たちは残り時間が十分に残されたままカラオケを出たのだ。

旅行中、現地の学生たちが代わる代わる私達を案内してくれた。韓国の人たちは訪問者をとても大切にしてくれる。ノーブランドだった私達を色んなところに連れて行つてくれた。一番驚いてしまったのが、夜に行つたクラブであった。1日中買い物につき合わされて疲れたはずの学生たちが、夕食の後に二次会に行こうと誘つてくれたのだ。まさか、韓国でクラブに行くことになるとは……。さらに面白いのが、クラブは彼らの行きつけだと思つていたら、全く行つたことがなかったそう。彼らの行動力には驚かされるばかりであった。



新潟市近郊角田山の雪割り草

はいつも二週間程度干す。昨年は三週間も干してしまつた。これは経験不足が原因だ。私はできあがった冬の沢庵をあまり見たくなかったが、それでその沢庵でも「美味しい」と言つて食べてくれる人がいた。涙が出るほどうれしかった。今年もトマトの苗を植える時期が近づいている。連休のどこかの一日はトマトの苗を植えることになる。今年は、栽培する土を変えてみようと思つている。

# 文化交流学科教員

意外な素顔?!  
じれが素顔?!  
眠れる二葉進?!  
心は山崎龍一

## 堀口悟

専門は日本の伝統文化。香りを聞き分ける「香道」



とか、室内スポーツ「かるた競技」とか、「物語文学」とか、古典的な遊びが趣味と実益を兼ねてます。遊びの文化を実践したり研究したりの毎日です。元来遊びだから楽しいけれど、奥深いので大変なところもあります。他の活動としては、犬の散歩に疲れています。水戸市郊外でコリー犬を連れて自転車移動している不審なおジサンを見かけても、決して声はかけないように。

## 猿田知之



見ての通り、フツのオジ(ジ?)さんです。とりたてて趣味も特技もありません。と、これではミもフタもありませんので、私の名字について、ちよつとお話ししましょう。皆さんが、もし地図に興味があるなら、とりあえず茨城県地図を子細に眺めてください。県北の天子、県西の岩瀬、県

## 二葉進



南の鹿嶋付近に「猿田」の地名があります。秋田や山形に目を転ずれば、やはり同じ地名を探しだせます。図書館で『日本地名索引』などで調べれば、相当の数になります。つまりはごく当たり前の地名に過ぎません。それでは「猿田」とはどんな意味なのでしょう。地名学者は「崖下の石の多い所」と考えているようです。一方、日本語学者は、「サナダ(真田)」と同じく、「サ(神)ル(の)タ(田)」と、分析しています。普通の生活で、ふと生じた疑問に、一条の光をあててくれるのが「言語学(日本語学)」です。

愛知万博の報道に接すると自分の万博体験が思い出されます。一九七〇年、いまから三五年前の大阪で開催されたアジアで初めての「万博」は開催前から大変な盛り上がりでした。私は当時、日本交通公社(現JTB)の外人旅行部に所属しており、万博開催の約二週間前から、社命で現地(大阪)入りいたしました。おもな仕

事は海外からの外人観光客のお手伝いをするものでした。具体的には、各パビリオンへの優先入場交渉とか大阪市内のホテルの部屋探しが主な仕事でした。当時はまだ、高層ホテルもなく外人観光客を受け入れられるホテルの絶対数が少なく、京都や神戸ならまだしも、名古屋あたりまで部屋さがしをいたしました。需要と供給のバランスから、室料が高騰し低価格の部屋を見つけないに苦労しました。発展途上国からのお客様の中には、室料が高いので誰かと部屋をシェアしたいとの申し出もあり、相手の方を見つけないにかなり時間が費やされたのを覚えております。そして、最後の手段として日本旅館の宴会場までで、十名ぐらい一緒に寝てもらいました。プライベートがなくて、お客様からのクレームを心配しましたが、外国人観光客も大阪のホテル事情をよく理解してくれて、終わりにには貴重な経験を喜んでくれました。という思いが残っております。

その後、私のやってた仕事のノウハウは、七五年の「沖縄海洋博」、八五年の「つくば科学博」、九〇年の「大阪花博」へと後輩に引き継がれていきました。海外での「万博」にも視察をかねて行きました。特に九二年スペイン、セビリアでの開催は印象に残っております。会場内のパビリオンでは、「日本館」が大変な人気でした。館内は「お茶」をたてたり、琴の音が流れたりで、ヨーロッパの人々には異国の情緒が感じられたのではないかと思います。幻の城、「安土城」のなかが再現され、なかなか好評でした。日本で見ると、海外で見ると

万博とはかなり雰囲気が違う感じがしました。今回の万博は二一世紀になって最初の万博です。ぜひ、皆さんも機会がありましたら見学にいらしてください。

## 佐々木冬流



自己紹介——北海道に生まれ、東京に学び、九州へ流れ、茨城に漂着して、はや三〇年くらい(正確なことは忘れた)。人生の終わりに近づいてつくづく思う。少年老い易く学成り難し、と。

アドバイス——成り難いのは学だけではない。諸君も元気がうちに頑張ってみて下さい。ぐずぐずするな。但し、焦って早まってへこたれるな。何事もほどほどがよい。老齢心ながらのアドバイスである。

## 細谷瑞枝



三月末に人間ドックに行ってきました。体重増加なのに体脂肪率減少して、いったい何が増えたんでしょうか。筋肉? 脳みそ? カルテには一言「健康体である」。うん、もちろん喜ぶべきことなんですけど、健康すぎて恥ずかしいって言うか、文学やっている人間(専門はドイツ文学)としては少しくらい病的な部分がほしいって言うか……。とにかく居並

ぶ個性的なC科のスタッフの中で群を抜いて普通なのが私です。趣味ではないのですが、ドイツの最近の映画のDVDを集めはじめました。買うだけで観てないので、一緒に観る人募集中。気軽に声をかけてください。

## 染谷智幸



(自己紹介)、お経のリズムに乗せて読んでください。

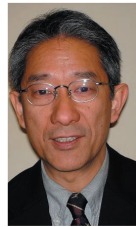
染谷智幸、茨城基督、大学教員、一妻一娘、愛人皆無、持金皆無、友人少々、思想穏健、優柔不断、才能未知数、研究課題、江戸小説、韓国大好、中国大好、独島(竹島)、心配、台湾憂慮、空オケ大好、持歌多数、特好歌手、中島みゆき、今後希望、日韓架橋、現在特訓、韓語会話、将来挑戦、中国会話、皆様宜敷御願言上・・・合掌。

## 志賀市子

中国の道教や民間信仰の研究を専門としています。占いや風水なども守備範囲ですが、占いや風水が看られるというわけではないので、突然私の研究室にやってきて、私の運勢どうでしょうとか、うちの裏山の風水を調べてくれと言われても困ります(たまにそういう人がやって来ます)。趣味は映画鑑賞で、以前は香

港映画にはまっていたんですが、最近では韓国映画やタイ映画もよく見ます。日本未公開の韓国映画は、香港で買った中国語字幕のDVDで見ます。アジア映画の好きな人、ぜひ語り合いませんか!

## 斎藤聖一



本日は日本近代軍事史の専門家なのですが、この大学ではほとんどパソコンの先生とかわかっています。それとバックパッカー歴も長いので、旅の相談に来る学生が多いです。軍事史とパソコンと貧乏旅行という三大オタク分野で生きていることは、自分にとってほとんど理想的な人生です。それ以外のことは何もしたくないのですが、飯を食うために講義もします。そのわりに講義は上手いです。眠らせません。というか寝てる学生は起こします。通常は、いじめられないように明るい感じで話しています。できるだけ自分というものを見せないように心がけ、他人とコミュニケーションをとらないで生きていきたいと思っています。大学に来ていないときはほとんど家から出ません。表面に見えている斎藤は偽者です。では。

## 藤田悟

自分が何であるかまだに分からずいます。連れ合いにとってはアイボウであり、子どもにとっては父親です。大学では比較教育とか英語関連

の授業を担当しているし、カンボジアに「ボランティア」ということで出かけたたり、学園祭では学生と一緒にアジア・パザールをやったりはしています。大学では一応、図書館長ということにも。二十年前から毎月『子どもとゆく』というミニコミを出してもいます。粘土をいじって焼き物を作るのも好きだし、木を削って靴べらやスプーンを作ったりもしています。そういうことは分かっています。『それらの集合』ばく」といえるのかどうか……。分らずじまいで終わるのでしようか?

## 田園

天津師範大学の田園と申します。天津の大学では国際文化交流学院で中国語の教師をしていました。私はこの仕事をとても気に入っています。

ふだん、授業のないときは学生たちといっしょに運動や文化交流活動に参加することが好きです。休みの日は家でだらだら寝たり、本を読んだり、テレビを「見たり、友達と街をぶらぶらしたりします。時には体育館に行くと、ピン



ポンやバドミントンをすることもあります。料理については、餃子や簡単な中国料理が作れます。みなさん時間があつたら、ぜひ私の作った餃子を味わってみてください。

# 自分の会社を持つことが 将来の目標

佐藤 伸幸

文化交流学科04年3月卒  
現在は天津師範大学大学院生



中国人の考える資本主義経済  
在学生の皆さんこんにちは

私は04年C科卒業生の佐藤伸幸です。大学3年の時に天津師範大学へ1年の交換留学を経験、卒業後、同大学院で資本主義経済を勉強しています。中国で資本主義経済？と不思議に思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、社会主義国の考える資本主義とは何か？もう少し簡単に言うと、中国人の考える資本主義とは一体何なのか？というのが、私の大学院での研究のテーマです。現在の目標は日本、韓国、中国沿岸部を含む東シナ経済圏で活躍できる人材になること、そして将来的には自分の会社を持つことです。

物流会社でインターンシップも

その目標に向け、学校の勉強のほかにも、現在、週末など余暇の時間を利用して、韓国の物流会社でインターンシップをして勉強中です。主に日本の会社とのメールのやり取りや、書類の翻訳業務を担当しています。現在の日本と中国の貿易量は今やアメリカをしのぐ勢いで成長しています。食品を含め、皆さんの身の回りには生活必需品のほとんどが、中国製といつても過言ではないと思います。これだけ生活や経済面

で密接に関係していながら、中国は日本人にとってあまり知られていない国だと思います。

私が中国に興味を持ったのは大学1年生の時、中国語検定を取るために先生の研究室に質問しに行った事が始まりです。その頃は、中国語の勉強も始めたばかりで少しもしゃべれなかったし、まさか自分が中国に留学するとは夢にも思いませんでした。しかし、中国語の学習を続けて行くなかで、留学生やたくさんの人と出会い、中国に対する憧れが少しずつ、中国の中で膨らんでいき、結果的に留学することを決意しました。

カルチャーショックの連続

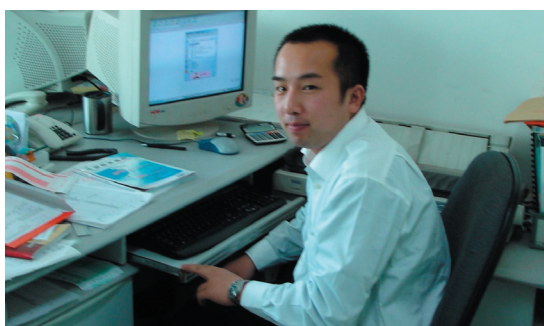
いざ中国に留学して先ず驚いたのが、自転車の多さです。ラッシュアワーともなると日本の車線ぐらいの幅の道路に自転車の川ができます。留学1日目の朝に見たあの光景は今でも鮮明に覚えています。それから3ヶ月ぐらいは毎日カルチャーショックの連続でした。大変だったけど、あの時が一番楽しかったように思えます。中国語も日本であれだけ練習したのに、ネイティブの発音とは程遠く、買い物するのでさえ大変でした。

外国の文化にあこがれてこの学科を選んだものの、実際

に何を勉強したらいいかわからなくて悩んだこと、皆さんはありませんか？

私も大学入学当初そんなことばかり考えていました。しかし、良く考えてみると文化交流というものは、ただ海外へ行く、外国人と付き合うということだけではなく、自分と考える違う人間と考えを共有することだと思えます。そう考えると文化交流の機会は、日常生活の中にもたくさん転がっているのではないのでしょうか？

好きなことを好きなだけ勉強できる茨城キリスト教大学は、他の大学に比べてみても留学の制度が整っているし、何よりも先生と生徒の距離が近いことが最大の利点だと思います。文化交流学を学ぶのには最高



の環境にあるといえるのではないのでしょうか？

大学での勉強の醍醐味は、高校までのテストのための勉強とは違って、好きなことを好きなだけ勉強できることだと思えます。苦手意識や食わず嫌いで自分に壁を作らず、新しい自分を見つけてみて下さい。

## JTB水戸支店で インターンシップ

野口雅代 (三年次)

実社会に出て行く準備

可能性という名の扉は自分の力でなければ、決して開くことはありません。焦ることはありません、とりあえず目の前にあることができる事からはじめてみて下さい。必ず道は開けます。

まず、初日と四日目に同行させていただいた営業では、ひたひた市内などの中学校を周り、修学旅行やスキー教室の打ち合わせやあいさつ、その他に先生方個人の旅行の相談などであった。同行して学んだことは、あいさつや言葉遣い、身だしなみの大切さである。営業では直接人とコミュニケーションをとるので、あいさつは欠かせないものになる。また言葉遣い、特に敬語が厄介なもので、普段使い慣れていないためスムーズに学校の先生方とお話することはできなかった。身だしなみもコミュニケーションの一端であり心がけなければならないことを実感した。言葉遣いと身だしなみというのは普段の生活があらわれてしまうので、これを機に普段から心がけていこうと思う。また敬語に関しての知識の貧しさを実感したため、必要最小限の敬語を勉強しようと思う。

今回JTBでインターンシップという貴重な体験をさせていただいた。私がこのインターンシップを希望した動機は、個人的に旅が好きだということ、観光学部に通っている友達から観光について話を聞いていくうちに観光業や旅行業に興味を抱いたからである。友達から聞く観光の話は、現在の観光業の現状や問題などであった。たとえば日本人の余暇を利用した旅行は、余暇の期間が短いため逆に疲れた旅行になってしまふという問題点である。自分にはまったく見えていなかった観光について話を聞こうと少しだけでも観光業に触れられたらいいと思った。

また、将来社会に出て働く上で、大切なことや身につけておくべきことを実際働いてみることでみずから見つけ出し、残された学生生活の中で追究したいと考えた。

営業、店頭、後方の三業務

今回一週間という限られた期間でやらせていただいたインターンシップの内容は、営業、店頭、後方の三種の業務であった。

通りホテルを予約したりプランを立てたりするのはなく、うまくアドバイスしながら快適な旅を作り上げようとする社員の方の姿はすごく魅力的であり、やりがいのある仕事だと思った。業務についての知識の量と処理の速さに、一人ひとりの能力が問われることを実感し、興味と関心を持って楽しく学ぶことができた。

コンピュータでポップづくり

わたしが店頭で一番心に残っている仕事は、ポップづくりである。自分の作り上げたポップをお店に置いてくれたのだ。今までのポップを参考にしながら、自分の持っているコンピュータの技術を十分にだしながら課長のイメージに近いようにわたしなりに精一杯コンピュータとにらめっこをしてポップづくりに励んだ。その成果がこのような形となつてあらわれ、わたしは充実感と達成感でいっぱいになった。学校できちんとコンピュータを勉強しておいてよかった。さらに技術を高めるためにもっとコンピュータを勉強しようと思う。

一般旅行業務取扱主任の資格を取ろうと考えているので、印刷していただいた問題を活用して勉強していこうと思う。

大切な言葉遣いと身だしなみ

実践で自分の力がどれだけ役立つかというのを試すことができるインターンシップ。今回はポップづくりで自分のコンピュータの技術に自信を持たせたが、ここで満足せずさらに上を目指そうと思う。営業と店頭での業務ではあいさつや言葉遣い、身だしなみの大切さを知り、敬語を勉強するといった課題を見つけていくことができた。また、「人と接するとき」はどんな時も、「まずは相手に興味を持ち、相手の立場を理解すること」を心がけるようにしようと思う。コミュニケーションというものは、そこから始まる気がするからだ。

インターンシップという制度を利用して、社会に出る前に実社会を見ることができて本当に良かった。残りの学生生活においてさらに教養を高め、人間性豊かな人物になりたい。

4月27日 5時半から

### 留学生歓迎会

学生食堂1F

参加費 500円 留学生は無料

### これぞ文化交流 だっべ!

問合せ先  
4年生・沼田直子 or 教員・染谷智幸

ロンゴロンゴとは南太平洋ポリネシアのイースター島で昔作られた「物を言う板」です。この板には文字のような物が書いてあります。この文字はまだ解読されていないようですが、これは島の人々に歴史や情報を伝える板でした。